

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2017.09.30

NO.27

- 理事長あいさつ 日本学校教育相談学会栃木県支部理事長 柴 一彌
- 平成29年度日本学校教育相談学会栃木県支部総会報告
- カウンセリング特別講座「子どもたちの生命とところを守る」 講師： 相馬誠一 先生
- 栃木県支部主催学校教育相談基礎講座実施
- 第29回日本学校教育相談学会総会・研究大会（千葉大会）
- とちぎ教育相談カフェのご案内
- 栃木県支部事務局からお知らせ

○ 理事長あいさつ

日本学校教育相談学会栃木県支部理事長 柴 一彌

「千載一遇のチャンス！新しい改革の波がやってくる！」

私は年に3回開催される日本学校教育相談学会役員会に「北関東山梨ブロック」代表として選出され、昨年度より出席させていただいています。

そこでは栗原慎二会長が会議のたびに力を込めて述べている発言があります。そして先頃、神田外語大学で300名以上の参加者を得て成功を収めた第29回千葉大会総会の挨拶で同じように訴えています。役員会の発言と合わせてその内容を要約してお伝えします。

「皆さん、いいですか。本学会は今、年に100名の退会者を出しているんですよ。今2700名。このままあと10年たったら学会は今のサービスを継続することはできず消滅です。しかし、私は唯一日本の子ども、教師、学校を支える学校教育相談学会を微力ながら力強く変えていくつもりだ。楽観しています。というのは過去28年の学会の歴史をこの1年でカバーするくらいの、一皮むけて成長するチャンスが今訪れているのです。

それは『チーム学校』の後押しになる『予防、開発、ガイダンス』の役割を担うスクールカウンセラー、ソーシャルスクールワーカー小中常勤化の方向性が見えてきたことです。文科省は手始めに平成30年度、つまり来年度から予算をつけて動きだそうとしています。そして2020年東京オリンピック以降は一気に加速させようとしているのです。

また本年1月20日には文科省から『教育相談に関する報告』が出され、相談学会が訴えてきた『予防、開発、ガイダンス』の必要性が強調されているのです。一元的に情報管理をして相談活動の統括マネジメントを担う『(仮)教育相談コーディネーター』や授業の軽減、担任を持たない『相談教諭』の新設は現実味を増しています。千載一遇のチャンスです。この『相談教諭』には本学会の認定『学校カウンセラー』を基礎資格にした『ガイダンスカウンセラー』になってもらうことが前提です。心理偏重になりがちな臨床心理士や話題の公認心理士には期待できない新しい「教育カウンセリング」を担ってもらうのです。

6年後には大量に公認心理士が登場します。今からできること、現役の先生方にはもっともっと本学会の存在と展望を丁寧に訴え新会員になってもらいましょう。現役を離れた会員は認定『学校カウンセラー』を基礎資格にしてガイダンスカウンセラーを取得し(当分書類審査で資格取得可能)、新しいスクールカウンセラー登用枠(さいたま市では大学心理系教員、精神科ドクター、臨床心理士のほかに先の者と同等の資質を有すると認められるものとして「ガイダンスカウンセラー」が含まれています)で挑戦できるよう実践・研鑽に励みましょう

本県支部の学会員数は約170名、全国2番目の規模です。新しい会員獲得に力を貸して下さい。そして会員として、「チーム学校」の一員として実践実績を積み上げそれぞれ新しいステージ、活躍の場をめざしましょう。

○ 平成29年度日本学校教育相談学会栃木県支部総会開催

6月10日(土) 13時から栃木県教育会館5階小ホールを会場に、平成29年度日本学校教育相談学会栃木県支部総会が開催されました。

総会では、支部会員の皆様が気軽に学べる場として、平成28年度に「とちぎ教育相談カフェ」を立ち上げたこと。また、平成29年度は栃木県における学校教育相談基礎講座(1, 2, 3)が企画されているお知らせがありました。基礎講座(1)として総会后、相馬誠一先生(東京家政大学大学院教授)をお招きして『子どもたちの命とところを守る』と題し、子どもの自殺についてどう捉えるかというテーマで講演を催しました。

なお、学校教育相談基礎講座(2・3)は、会員の皆様の資質・技術の向上を目指して7月29日、30日の2日間、6講座12時間の内容で実施しました。(文責 馬場友治)

○ カウンセリング特別講座「子どもたちの生命とところを守る」

(栃木県支部学校教育相談基礎講座第1日)

講師：東京家政大学大学院教授 相馬誠一 先生

6月10日、栃木県支部総会に引き続き、カウンセリング特別講座(今年度栃木県支部が主催する学校教育相談基礎講座を兼ねる)が教育会館小ホールで開催されました。講師は、箱庭療法などの講座で栃木県でもお馴染みの相馬誠一先生です。今回は、相馬先生が力を注がれている子どもたちの自殺予防に関する講座でした。

相馬先生が総監修をされたDVD映像教材「いのちと死の授業」(丸善出版)にもとづくお話で、臨床実践にもとづく臨場感あるものでした。そして、実際にDVDの一部も視聴させていただきました。

ほんの一部ですが、以下のようなお話をいただきました。

- ・いじめ、自殺企図などは、学校で、ネットで、大人に知られずに進行している。
- ・自殺による死者は、交通事故の約4倍。交通事故防止に比べると対応が十分でないし、進展もない。
- ・自殺未遂は繰り返す。そして、より危険性が高まる。
- ・10代の自殺は周りにサインを出している。死を望んでいる人は助けられる。
- ・自殺には、マスコミ等のアナウンス効果が影響する。危機管理が重要。
- ・今はネットの時代。SNS等で「自死を考えている子がいることを」子どもたちはみんな知っているのに、知らないのは教師や親。
- ・すべての子どもを対象にした「いのちや死」についての教育(自殺予防プログラム)が必要である。



- ・教師にできること、できないことがある。それを知り、できることをしっかりやってほしい。
- ・学校は、子どもの心の叫びに気づく校内体制、教師一人で抱え込まない校内体制を。そして、自殺予防に関する関係機関、地域ネットワークの押さえを。

詳細や具体的な内容については、前述のDVD映像教材のほか、相馬先生の著書を当たってみてください。また、相馬先生は、連合教育会のセミナーやカウンセリング学会の研修会で、今後も栃木県たびたび来てくださると思います。そうした機会に、ぜひ直接お話を伺ってみてください。

(文責 松本直美)

○ 栃木県支部学校教育相談基礎講座第2日・第3日

第2日と第3日は、以下のような講座が行われました。それぞれ事例や実践にもとづく説得力のある説明で、実施・活用上の留意点や多様な見方・考え方など大変参考になる内容でした。

- ・「面接の基礎技法」講師：柴 一彌先生(支部理事長)・池田清恵先生(元養護教諭)
- ・「保護者との連携の在り方」講師：藤浪直紀先生(私立高校相談員)・馬場友治(SV・連合教育会相談員)
- ・「学級集団づくりのために」講師：佐藤幹雄先生(連合教育会相談員)・伊澤 孝先生(学級担任・ガイダンスカウンセラー)
- ・「心理検査を考える」講師：中山芳美先生(学校カウンセラー)・高松千恵子先生(学校カウンセラー)
- ・「不登校の理解と支援の在り方」講師：伊澤裕先生(学校カウンセラー・SV・元まちかどの学校担当教員)・平峰孝二先生(連合教育会相談員)
- ・「Q-Uの理解と活用」講師：築瀬のり子先生(学校カウンセラー・SV・学級経営スーパーバイザー)

第2日・第3日の県支部理事等による講座は、基礎講座でありながら、実践講座とも言うべきレベルの高い内容であったという意見もある一方、実用的でとてもよかったので来年もまた・・・という声もいただきました。年度後半は、次年度の計画を立てていきます。栃木県支部の人的資源を生かした学校教育相談基礎講座のニーズについて、事務局や役員に声をお聞かせください。



＜参加者の感想＞

＜西山悦子さん＞

- ・一コマ一コマ先生方が変わることで、全力の講義を受けることができ、復習にもなり、新しい刺激にもなりよかったです。（受ける側は連続なので正直疲れましたが、細かく休みを取っていただいたので助かりました。）
- ・Q-Uにおいては、もう一度丁寧に見直して今後の学級経営に活かしたいと、改めて思いました。

＜笠原万左枝さん＞

- ・多くの講師の先生方に大変お世話になりました。
- ・二日間びっしりと多くの研修を受講することができました。内容も充実していて、とても勉強になりました。再度資料を見直したいと思います。また、今現在できること、何ができるのか、考える力（元気）を充電し現場で行いたいと思います。

＜渡辺恭子さん＞

- ・Q-Uは、本校でも2回実施し2学期には研修もあるので、事前に勉強させていただき有意義でした。
- ・描画法は以前にやったことがあります。常日頃子どもたちに実施しているわけではないのでさらに勉強してやってみたいと思いました。
- ・夏休みの始めのこの時期、執務が山積みで、この研修に参加しようかと迷いましたが、参加して本当によかったです。養護教諭ですが、相談活動に携わることが激増しています。心のゆとりを持ちながら頑張りたいと思います。



（文責 馬場友治・松本直美）

○ 第29回日本学校教育相談学会総会・研究大会（千葉大会）

大会テーマ「チームでひろげ つながる学校教育相談 ～温かい眼差しの輪の中で～」

会場：神田外語大学・ホテルポートプラザちば

期日：8月4日～8月6日

総会報告 ＜会長挨拶＞日本学校教育相談学会 栗原慎二 会長

「文部科学省講演」・「海外招待講演」報告

（文責 柴 一彌）



栗原慎二会長の挨拶

演題：「学校教育相談の体制の充実」

講師：坪田知広 氏（文部科学省初等中等教育局児童生徒課長）

＜要旨＞

- ・スクールカウンセラーが子どものことで親の知らないことまでその様子を観察して報告をしてくれる、このありがたさが学校とのぎくしゃく感を防いでくれるのだ。相談業務に携わるものは集団のバックヤードを観察していくことが重要だ。その行動が予防・開発・問題解決に繋がる糸口になると考える。
- ・平成31年度までにすべての小中学校にSCを配置し、常勤化をめざしたい。SC、SSW（スクールソーシャルワーカー）を教員定数枠に入れることももくろんでいる。
- ・貧困、虐待枠での教員加配は一部で実施している。
- ・教育コーディネーターの輪郭をはっきりさせて誰がやるのか検討しているところだ（この発言は学会が提唱している担任を持たせず、授業を負担軽減した『相談教諭』の設置を連想させる重要な発言）
- ・「教員がすべてをやるのが基本」プラス「専門家と役割を分担」する視点を当たり前のようにしていきたい。

演題：「台湾の輔導教師の制度と役割」

講師：田秀蘭 氏（国立臺灣師範大学教育心理與輔導学系教授兼系主任）

<要旨>

- ・2014年に「学生輔導法」が制定され、これを実践すべく大きな改革をしてきた。
- ①日本には存在しない輔導教師（輔導教師・教員資格とガイダンス・カウンセラー資格を持つ）が学校規模に応じて小中高に割り当てられている。
- ②すべての学校は「学校教育相談事業計画」を立て、つぎのような3段階の教育相談を提供している（筑波大学の石隈先生が学校心理学で述べている内容に近い）
 - I…開発的教育相談。すべての生徒対象にライフガイダンス、学業支援、キャリアガイダンスを提供し、心理的健康、社会適応、適応性の成長を向上させる。
 - II…介入的教育相談。前述Iの相談が効果的でなく問題行動が繰り返され、適応が低い場合の相談。個別カウンセリングを提供し、アセスメントをして専門機関への照会を行う。
 - III…治療的教育相談。I、IIで提供された教育相談が有効でなく、より深刻な適応困難、問題行動を抱えている生徒には心理療法、福祉的援助、家族カウンセリング、作業療法、法的援助、精神医学的治療などの専門的な支援が提供される（担当は輔導教師、雇用され、常駐しているスクールカウンセラー、外部の教育相談センター）
- ・12年間の義務教育を課す台湾では（日本で言う高校の場合）欠席3~4日で中退扱いになるという厳しいルールがある。この枠で最大限のできる生徒輔導施策・手立てを実施している。その効果が、不登校からの復帰率の高さ、大学への進学率の高さに表れている。
- ・ゆくゆくは才能を発揮する「原石」は都市・地方に関係なくたくさん存在しているという認識で教育活動に取り組んでいる。



千葉県支部のスタッフによる余興（懇親会）

夏季ワークショップ報告（8月4日開催）

① いじめ・対人トラブルの修復的対話の理論と実践（Aコース）

講師 山下英三郎 先生（NPO 法人修復的対話フォーラム代表）

（文責 柴 一彌）

・要旨
「いじめ」で言えば今までにはない加害者と被害者の新しい関係を構築する理論を「修復的対話理論・RJ法 Restructual Justice 」という。司法界では1970年代から各地（カナダ、アメリカ、ニュージーランド）で導入。理念は「すべての人、ものは繋がっており、それぞれ明確な違いがあっても均衡が取れていることが重要。（中略）断絶、不均衡は世界の調和を乱すことになり修復される必要がある」という考え方。

具体的には「RJサークル」を使って行う。リードはしない同じ参加者の位置にいる「キーパー」役が雰囲気作りを担い参加者は輪になってトーキングする形式である。

基本的なルールは ①お互いを尊重する②相手の話をよく聴く③相手を非難しない④発言しなくてもよい。

・感想

日本ではなかなか根づかない話し合い形式。演習をしてみたがアサーショントレーニングとベシックエンカウンターのミックス版と感じた。私流に言わせれば「折り合いをつける」である。本音で討論するという実践がどれほどされているか、対話的・主体的学習（アクティブラーニング）がどれだけRJ的になれるか、これからの成り行きを注目したい。



ワークショップAコースの様子

② 解決志向アプローチの考え方（Eコース）

講師 黒沢幸子 先生（目白大学）

（文責 小柳義一）

講師はブリーフセラピーの第一人者、黒沢幸子先生。ブリーフセラピーは、自分の面接でも使っていますが、今ひ

とつ自分のものにしていないという思いがあり、参加しました。

内容は、2人組のワークなども含め、「解決志向アプローチの基本」の確認。事例を通しての「例外探し」の演習。「短期療法をクラス集団にどう使うか」のお話などでした。最後に、ベストホープ&スケーリング・クエスションの2人組ワークを行いました。私にとって、印象に残ったことは、クライアントの問題を抱えながらも、現状を維持していることに対する強い肯定的な姿勢と、問題解決のためのスモール・ステップに対する柔軟な姿勢でした。そして何よりも、感銘を受けたのは、まず、技法ありきではなく、クライアントに寄り添う黒沢先生の謙虚な姿勢でした。

③ 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践（Fコース）

講師 清水栄司 先生（千葉大学）・浦尾悠子 先生（千葉大学）

（文責 望月 都）

この授業で使用されるテキストは、不安の問題の予防と早期介入を目的とした認知行動療法に基づく、予防教育プログラム「勇者の旅」である。1回45分×全10回で構成され、「勇者の旅」を一步一步進んでいくと、不安を小さくするための技をたくさん身に付けることができるようになっている。

各グループのメンバーが「教師役」となり、子ども達（他の研修参加者全員）に向けて授業をするというロールプレイを行った。どのグループも楽しくわかりやすく展開するための工夫やアイデアが満載で、熱い思いのこもった授業となった。私たちのグループはステージ3：勇者の基本技『勇者のリラックス法』を受け持ったが、不安階層表の作り方やアサーショントレーニングも組み込まれていて、すぐにでも取り入れたいと思う内容ばかりであった。

感情をコントロールすることが苦手な子どもたちに対処法を教えているが、どうしても事後の関わりとなってしまい、予防的関わりをどうするかが私の課題である。今回の講座では、すべての子どもを対象に意図的・計画的・継続的に支援するプログラムを作成するためのヒントをたくさん得ることができた。

公開記念シンポジウム報告（8月5日開催）

テーマ 『大人への移行のための「学び」—移行支援としての教育の可能性』

講師 保坂 亨先生（千葉大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻長教授）

小野善郎先生（和歌山県精神保健福祉センター所長）

（文責 池田清恵）

現代は98.5%以上の中学生が高校に進学しており高等学校は事実上の義務教育と考えられる。少子化のために低学力でも高校に入れるため、不登校になり退学になる生徒や他のサポート校への転学に至る生徒もいるがその10%の生徒もが退学になっている。

この問題を解決するためには、現在の教科内容型（知識獲得型）の学習だけでなく対人関係スキル（コミュニケーション能力）を高める教育が必要である。また、生徒の置かれている家庭環境や親の価値観などの違い、格差や社会の不平等を軽減することが、生徒が大人としてのスタートラインに立つために必要であると話された。

分科会・自主シンポジウム等報告（8月5日・6日開催）

① 実践事例・研究発表

「コミュニケーション能力を育むための高等学校における試み～アサーショントレーニングの授業実践を通じて～」 発表者 大林孝一郎先生（宮城県塩川高等学校）

「子供の人間関係を深める指導に関する研究～家庭と連携した発達を踏まえた取り組みの実践～」 発表者 武藤榮一先生（群馬県渋川市立橋小学校）

（文責 小川正人）

前者は、高等学校の国語科において言語事項の指導の一環として、アサーショントレーニングを取り入れた実践であった。アサーショントレーニングは人間関係の改善に有効な手段だが、特別支援学級においてはどうかと疑問を持っていた。その点を発表者に質問すると、特別支援学校での実践例を紹介してくれた。

後者は、家庭を基盤とした親子体験型授業や親子参加型授業を中心とした発表だった。最近では愛着障害が増えていると言われているが、その解決策として親子スキニップや役割演技を取り入れた授業が示唆を与えてくれた。群馬

県の助産師会が授業を行ってくれるのが良い取り組みだと思った。

② ラウンドテーブル「保護者支援を語り合う～対話から協力・連携まで～」

企画者 渡辺正雄 先生 話題提供者 松田憲子 先生

(文責 佐藤幹雄)

私は最終日、「ラウンドテーブル」に参加した。春日井敏之先生の学会賞受賞者講演を聴きたいという思いも強く、直前まで迷いに迷った挙句、会場を見て、「ラウンドテーブル」に決めた。春日井先生の講演は聴衆者が非常に多く、一方「ラウンドテーブル」は参加者が少なかったからである。

最初に千葉県子どもと親のサポートセンターの松田憲子先生より「保護者相談分析と若年経験者教員の意識調査から見える信頼関係構築のための課題」というテーマで話題提供があった。

若い先生方が保護者との信頼関係を作ることをサポートしていくためにハンドブックを作っていることを中心としたお話であった。その後、小・中・高と、グループごとにラウンドを作った自由討議となった。ネガティブメッセージはなかなか若い教員の中には入ってこないという話から傾聴は難しいということに話しは移った。しかし、やはり傾聴は大切であり、保護者の考えを理解し、そのネガティブメッセージを生かすことが大切であるというところに落ち着いた。その上で、何が問題なのか？何を聴くのか？ということ熟考して話を聴いていく。また、親と信頼関係を築いていくためには、その対応のためのリソースを探していく（例えばその保護者とつながりのある人、信頼関係にある人の支援・助言を仰ぐなど）ということも大切だということになった。私が大変印象に残ったことを一つ。ある私立高校の先生が、「クレームのつけ方」というテーマで、保護者に学校側と話し合う場合の適切な話し方を、通信を使って伝授している教育センター？校長？がいるという話をしてくれた。？はどちらだったか忘れてしまったが、大変面白い有効な発想だと感心した次第である。

○ とちぎ教育相談カフェのご案内



2年目を迎えた日本学校教育相談学会栃木県支部主催の「とちぎ教育相談カフェ」、今年度は年度後半に2回組まれています。

教育相談カフェは、飲み物を片手に、気軽に、学校教育相談に関わるテーマについて、語り合い、学び合う場です。

一方的に話を聞くだけでなく、参加者の実践や課題、悩みなどを共有し合います。明日からの実践を改善するヒント、がんばってみようという元気も得られるかもしれません。

会員に限定しない公開の学習会で誰でも参加できます。教育相談に興味があるできるだけ多くの方に門戸を開き、入会のきっかけとなることもねらっています。会員以外の方も誘って、お好きな飲み物持参で参加してみてください。素敵なお菓子が出てくるかも？

<今年度の予定>

✚ 第1回 「子どもの言い分と関わりについて」 連合教育会相談員 馬場友治 先生

10月21日(土) 14:00～16:00 とちぎ青少年センター研修室(2F)

✚ 第2回 「小学校および家庭教育ならびに学童保育の実際」 連合教育会相談員 平峰孝二 先生

平成30年2月24日(土) 14:00～16:00 とちぎ青少年センター研修室(2F)

☆各回ともに、事前申し込みは必要ありません<<当日、直接会場におこしください>>

☆各回ごとに、参加費500円が必要になります<<当日集めます>>

(文責 松本直美)

○ 栃木県支部事務局からのお知らせ

開催期日	事業名	会場	備考
10月7日(土) 13:30～16:00	【第32回支部研究発表】 コメンテーター 毎澤 典子先生	栃木県教育会館 2F 小会議室	2名発表
10月21日(土) 14:00～16:00	【第1回 とちぎ教育相談カフェ】 『子どもの言い分と関わりについて』馬場 友治先生	とちぎ青少年センター 第2研修室	連合教育会 相談部相談員
11月18日(土) 13:30～16:00	【第33回支部研究発表】 コメンテーター 築瀬 のり子先生	栃木県教育会館 2F 小会議室	2名発表
12月2日(土) 13:30～16:00	【カウンセリング特別講座・合同研修会】 講演「アドラー心理学による勇気づけ」 講師 岩井 俊憲先生	栃木県教育会館 大ホール	ヒューマン・ギ ルド代表
H30.1月6日(土) ～7日(日)	【日本学校教育相談学会・中央研修会】 未 定	オリンピック記念 青少年センター	
2月3日(土) 13:30～16:00	【精神医学特別講座・合同研修会】 講演「小児科医からみた子どもの心」 講師 柳川 悦子先生	栃木県教育会館 大ホール	柳川小児科医院 副院長
2月24日(土) 14:00～16:00	【第2回 とちぎ教育相談カフェ】 『小学校および家庭教育ならびに学童保育の実際』 平峰 孝二先生	とちぎ青少年センター 第2研修室	連合教育会 相談部相談員

<皆さんの参加をお待ちしています>

- * 『支部研究発表会』 10月7日(土)、11月18日(土)
- * 『とちぎ教育相談カフェ』 会員でない方もどなたでも!
10月21日(土)、H30年2月24日(土)
- * 『北関東ブロック研修会 in 埼玉』
10月21日(土) 発達障害のある子どもたちに対する育て方支援
大宮ソニックシティ601号室
会費 会員500円 一般1000円

<会費の納入をお願いします>

- * 該当する方にはお知らせを同封しました。ご覧ください。

日本学校教育相談学会栃木県支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 栃木県教育会館 栃木県連合教育会相談部内
 日本学校教育相談学会栃木県支部事務局 (中山芳美・高松千恵子)
 TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682
 E-Mail : soudan@tochigi-rk.jp
 ホームページ : <http://t-soudan.sakura.ne.jp/index.html>
 (会員の部屋パスワード tb-jascg3123)

発行責任者 柴 一彌

広報担当者 馬場友治・松本直美・平峰孝二・佐藤幹雄